からまつは、にぎやかなりけり！

手入れされた新緑のカラマツ林（佐久穂町）

今回の植樹祭で植える カラマツについて紹介します

北原白秋は、詩「落葉松」の中で「からまつはさびしかりけり」と表現しました。しかし、実際のカラマツは昔から利用され続けるだけでなく、今も造林木やカラマツ材として注目され、周囲の人々を「にぎわせている」樹木です。

この木は、特に幼い時期は日当たりの良い場所を好み、日が陰る場所では、発芽や成長が極端に悪くなります。また、スギやヒノキなどよりも寒さに耐えて成育できるため、信州の冷涼な気候に合っています。

葉は日光を良く通すため、地面に光が届きやすく、カラマツ以外の様々な草木も良く生える森林になります。だから、他の針葉樹林と比べて多くの種類の動植物がカラマツ林で暮らしています。

昔、日本のカラマツは欧州カラマツと比べて成長量や病気などへの抵抗性に秀でているため、欧州、ニュージーランド等の海外に輸出もされていました。現在は杭材や、合板の原料としてなくてはならない木となっています。

カラマツの中でも特に「信州のカラマツ」は用材としての品質の良さから一目置かれています。

皆さんが植える小さなカラマツは、将来役立つために、今、大地で枝葉を伸ばし始めます。